

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成22年5月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0270700313
法人名	有限会社 ケア・サポート三沢
事業所名	グループホーム赤とんぼ
所在地	三沢市大字三沢字南山85-1 (電話) 0176-54-2332
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年1月21日

【情報提供票より】(平成21年12月17日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年5月21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 12人, 非常勤 2人, 常勤換算 6人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000・30,000 円	その他の経費(月額)	理美容代1,500円ほか
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4)利用者の概要(12月17日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.9 歳	最低	62 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	三沢市立病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の郊外に立地しており、広い敷地の中には農園や果樹園が建物に隣接し、遊歩道も整備されている。ハウスや畑で収穫した野菜は食材として使用するほか、収穫したそばは雑炊にしたり、そば打ちをするなど、季節感を大切にした暮らしを提供している。

「自分らしさを失わない 家族も安心出来る、笑顔と思いやり そして、やすらぎのある生活を援助する事を目的とする。」というホーム独自の理念を作成し、その実現に向けて全職員が取り組んでいる。

利用者の暮らしぶりを一行日記として記録し、時には写真も同封し、家族通信として報告している。

利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、協力病院を確保しており、利用者の体調等に変化がある場合は、休日等に関わらず、受診できる体制を整えている。

管理者が管理栄養士の資格を持っており、栄養バランスに配慮した献立を作成している。また、食事や水分の摂取量を記録し、利用者の健康管理に努めている。

【特に改善が求められる点】

日常生活自立支援事業等について、制度を活用して入居されている利用者もいるので、継続的に内部研修を実施する等の取り組みにより、全職員が制度の概要を理解することに期待したい。

職員のスキルアップのため、力量や経験に応じた研修を段階的に受講できるよう、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。

職員も同業者と交流する場を持ち、情報交換等を通じて、ホーム及び職員の資質向上につなげていくことに期待したい。

やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合に備えて、理由や方法、期間、経過観察等を記録したり、家族等に説明して同意を得る体制を整備してはどうか。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果を基に全職員で改善点等を話し合い、今後のホーム運営につなげている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、職員会議やユニット会議で評価のねらいや活用方法を全職員に周知しており、職員は理解している。自己評価作成時は、ユニット会議で話し合って作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、委員が整い次第開催予定である。会議では、ホームの現状や自己・外部評価結果等を報告予定であり、委員との意見交換を行って、ホーム運営につなげようと意欲的である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>利用者の暮らしぶりや健康状態に関する一行日記を記録しており、時には写真を同封し、受診状況と共に家族通信として報告している。面会時は家族が意見等を話しやすい雰囲気作りに努めるほか、ホーム内に意見箱を設置している。また、重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示し、家族に周知している。家族から出された意見や要望は会議で話し合い、今後のケアに反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、県防災訓練の際には町内会の炊き出し訓練に参加している。また、ホーム畑に保育園児が芋掘りに訪れたり、米軍病院の方がクリスマス会に参加するほか、収穫したそばのそば打ちや夏祭り等のホーム行事に参加を呼びかけ、地域との交流を図っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者及び職員は、地域密着型サービスの役割を理解しており、少しずつ地域との交流を増やしていきたいと考えている。</p> <p>理念を各ユニットのスタッフルームとホールに掲示するとともに、暗唱することで、全職員への周知・共有を図っている。職員は理念を理解し、1日1回は利用者に笑ってもらおうという目標を持ち、日々のケアを提供している。</p> <p>契約時は、利用者や家族にホームの理念やケアの方針等について説明するとともに、意見や希望を聞いている。退居時にも家族に十分な説明を行って同意を得ており、退居先の情報提供等を行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>相談受付段階から、利用者や家族にホーム見学や体験利用を促し、安心してサービスを開始できるよう支援している。</p> <p>アセスメントを通じて、利用者の得意なこと等を把握している。また、洗濯物干しや畑仕事、調理の下準備等、利用者や職員と一緒に作業する中で喜怒哀楽を共にし、共同しながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>詳細なアセスメント表を活用し、入居時に利用者の意向を把握しているほか、日々の関わりから把握に努めている。また、必要に応じて、全職員で話し合いを行ったり、家族や関係者から情報収集を行っている。</p> <p>これまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、協力病院を確保し、利用者の体調等に変化がある場合は、休日等に関わらず、いつでも受診できる体制となっている。家族に受診時の同行をお願いしたり、職員が同行した場合は受診カードに記録し、家族に報告している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者への対応について、気付いたことがあれば職員間で話し合うほか、利用者の言動を否定していない。排泄介助時等は一人ひとりの羞恥心に配慮している。職員は個人情報保護法について概ね理解しており、個人に関する記録はスタッフルームに適切に保管している。</p> <p>管理者が管理栄養士であり、栄養バランスに配慮した献立を作成している。1日の総摂取カロリーは、1日2回のおやつを含め1,500kcal、1日の水分摂取量は1,000mlを目安として提供しており、摂取量を記録している。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は、地域密着型サービスの役割を理解している。「自分らしさを失わない 家族も安心出来る、笑顔と思いやり そして、やすらぎのある生活を援助する事を目的とする。」というホーム独自の理念を作成しているが、地域密着型サービスの役割を反映させるまでには至っていない。	○	全職員で話し合い、理念の中に地域密着型サービスの役割を反映させることに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各ユニットのスタッフルームとホールに掲示すると共に、暗唱することで、全職員への周知・共有を図っている。職員は理念を理解し、1日1回は利用者に笑ってもらうという目標を持ち、日々のケアを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入しており、県防災訓練の際には町内会の炊き出し訓練に参加している。また、ホームの畑に保育園児が芋掘りに訪れたり、米軍病院の方がクリスマス会に参加するほか、収穫したそばのそば打ちや夏祭り等のホーム行事に参加を呼びかけ、地域との交流を図っている。転勤族の社宅等がある地域で、近隣住民と交流が難しい環境にはあるが、今後、町内会でホームを紹介し、理解が得られるよう取り組みたいと意欲的である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員会議やユニット会議で評価のねらいや活用方法を全職員に周知しており、職員は理解している。自己評価作成時は、ユニット会議で話し合って作成している。また、外部評価結果を基に全職員で改善点等を話し合い、今後のホーム運営につなげている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、委員が整い次第開催予定である。会議では、ホームの現状や自己・外部評価結果等を報告予定であり、委員との意見交換を行って、ホーム運営につなげようと意欲的である。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム開設時に、市役所へパンフレットを配布している。また、ホームの実態を理解してもらうため、自己評価や外部評価結果を報告している。毎月開催している市主催のケアマネジメント会議に参加し、困難事例について話し合うと共に、ホームや施設の空き状況について情報交換を行うなど、市担当者との連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する外部研修に参加し、伝達研修を行っているが、全職員が制度の概要を理解するまでには至っていない。	○	制度を活用している利用者もいるので、継続的に内部研修を実施したり、外部研修に職員を派遣するなどの取り組みにより、全職員が制度の概要を理解することに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、高齢者虐待防止関連法に関する外部研修に参加し、理解を深めており、虐待のないケアに努めている。虐待につながる声かけ等があった場合は、会議等で話し合うなどの取り組みを行っているが、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等に関する取り決めを作成するまでには至っていない。	○	研修資料を基に全職員で話し合うなどの取り組みにより、虐待を発見した場合の対応や報告の流れに関する取り決めを作成し、全職員に周知することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、利用者や家族にホームの理念やケア方針等を説明し、意見や希望を聞いている。契約改訂時や退居時にも、家族に十分説明して同意を得ており、退居時には退居先に関する情報提供を行う等の支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態に関する一行日記を記録しており、時には写真を同封し、受診状況と共に家族通信として報告している。また、金銭管理状況は出納帳に記録し、領収書を添付して報告している。職員の異動についても、随時報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は家族が意見等を話しやすい雰囲気作りに努めるほか、ホーム内に意見箱を設置している。また、重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示し、家族に周知している。家族から出された意見や要望は会議で話し合い、今後のケアに反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は、職員交代による利用者への影響を理解している。離職や異動等がある時は、利用者一人ひとりに応じた説明を行うなど、利用者に与える影響に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の業務上の相談は、管理者が対応している。運営者及び管理者は、職員育成の必要性を認識し、職員に研修参加を促している。研修には主に管理者が参加しており、受講後は報告書を作成して伝達研修を行い、全職員に周知しているが、年間の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	職員の力量や経験に応じた研修を段階的に受講できるよう、内部・外部研修の年間計画を作成し、全職員が平均的に研修に参加できる体制を整えることに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や連携の必要性を認識し、グループホーム協議会に加入している。管理者はケアマネジメント会議に出席し、同業者との交流や連携を図っているが、職員が同業者と交流する機会を設けるまでには至っていない。	○	職員も同業者と交流する場を持ち、情報交換等を通じて、ホーム及び職員の資質向上につなげていくことに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用	相談受付段階から、利用者や家族にホーム見学や体験利用を促し、安心してサービスを開始できるよう支援して		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	アセスメントを通じて、利用者の得意なこと等を把握している。洗濯物干しや畑仕事、調理の下準備等、利用者と一緒に作業する中で喜怒哀楽を共にし、共同しながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	詳細なアセスメント表を活用し、入居時に利用者の意向を把握するほか、共に生活をしていく中で把握に努めている。また、必要に応じて、全職員で話し合いを行ったり、家族や関係者から情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時は、利用者の意見を聞くよう努めると共に、ユニット会議でケア方法等について十分話し合っている。また、家族や関係者等、利用者をよく知る人たちの意見や気づきを反映させており、利用者本位の個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し時期を3ヶ月と明示し、期間終了後は見直しを行っている。また、介護計画を意識しながら日々の記録を行っており、利用者の身体状況や家族の希望等に変化があった時は随時見直している。見直し時は、利用者や家族の意見を聞いたり、職員間で気づきを話し合うなどの再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者が管理栄養士の資格を持っており、栄養バランスに配慮した食事を提供している。また、ドライブ等の外出や受診時の同行等、利用者や家族の要望に対して柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、協力病院を確保し、利用者の体調等に変化がある場合は、休日等に関わらずいつでも受診できる体制となっている。家族に受診時の同行をお願いしたり、ホームが同行した場合は受診カードに記録し、家族に報告している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアには対応していないことを、ホームの方針として明確にしている。日々の健康管理や状態変化時の対応等について、利用者や家族、医療機関との意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への対応について、気付いたことがあれば職員間で話し合いを行っており、利用者の言動を否定することなく、排泄介助時等は一人ひとりの羞恥心に配慮している。職員は個人情報保護法について概ね理解しており、個人に関する記録はスタッフルームの目に付かない場所に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、その日の利用者のペースや、心身の状態に合わせたケアを提供するよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みや苦手なものに配慮して作成し、畑で収穫した新鮮な野菜を食材として使用している。利用者の状況に応じて、食事の準備や後片付け等と一緒にいたり、日勤の職員と一緒に食事を摂る等、食事が楽しみな時間となるよう配慮している。食事の時は、必要に応じて食べこぼし等のサポートを行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴習慣を把握しており、時間や方法等、利用者の意向を取り入れ、週3回は入浴できるよう支援している。入浴時は、利用者の羞恥心や負担感に配慮している。また、入浴を拒否する利用者には、足浴を促したり声掛けを工夫するなど、無理強いすることなく支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時やその後の生活を通して、一人ひとりの生活歴や希望、力量等を把握している。調理後の後片付けや洗濯物たたみ、おしぼりたたみ等の役割のほか、花の水やりや書道、トランプ等の楽しみごとを日常生活に取り入れている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩やドライブ等、日常的に外出する機会を設けている。また、利用者の希望や習慣を取り入れ、さくらんぼ狩りやりんご狩り等にも出かけている。外出時は、身体状況を考慮して、移動方法や移動距離を決めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は、身体拘束の内容やその弊害について理解しており、身体拘束は行わない姿勢で日々のケアを提供している。やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えて、理由や方法、期間、経過観察等を記録したり、家族に説明して同意を得る体制を整えるまでには至っていない。	○	やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合に備えて、理由や方法、期間、経過観察等を記録したり、家族に説明して同意を得る体制を整えることに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠していない。玄関は、外からは入れるが、中から出る時は暗証番号を押す仕組みとなっており、家族に説明して同意を得ている。利用者の外出傾向を察知できるよう見守りを行っており、察知した時は付き添う等の支援を行っている。また、無断外出時に協力が得られるよう、町内会に働きかけを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中と夜間を想定した避難誘導策を作成すると共に、緊急連絡網を掲示している。また、災害時に協力が得られるよう、地域住民や警察署、消防署等に働きかけを行っている。災害発生時に備えて、食料や飲料水を3日分用意するなどの取り組みは行っているが、避難訓練は職員のみで実施し、利用者は参加していない。	○	災害発生時により速やかに避難できるよう、訓練は利用者も参加して行ってはどうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者が管理栄養士であり、栄養バランスに配慮した献立を作成している。1日の総摂取カロリーは、1日2回のおやつを含め1,500kcal、1日の水分摂取量は1,000mlを目安として提供しており、摂取量を記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルをホール内に掲示している。また、保健所等から感染症に関する最新情報を収集し、会議で感染症対策について学習している。感染症に関する情報は家族にも周知すると共に、手洗いやうがいへの協力を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にソファ等家具を配置したり、花を飾る等、家庭的で季節感のある空間となっている。大きな窓からは自然光が入り、日射しの強さはカーテンで調節するほか、テレビの音量や職員の声のトーン等は適切であり、居心地良く過ごすことができる。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでもらうよう、家族に働きかけを行っている。また、写真を飾るなど、利用者と職員が一緒に個々に合った居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。